

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200168		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	グループホームせきの憩		
所在地	岐阜県関市下有知字糠塚4154-1		
自己評価作成日	令和5年11月26日	評価結果市町村受理日	令和6年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2190200168-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2190200168-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様がまだできる可能性を模索し、出来るだけ、ご自身で活動を行っていただけるようになっています。役割やレクリエーション、おやつ作り等、ご自身の得意な事に参加していただく、その内容をブログ、インスタグラム、そのようなSNSを見る事が出来ない方向けに、日々の生活の様子の写真を郵送しております。ご家族様、ご親族様方から、ご好評をいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は昔からの住宅は少ないが、アパートが数件建っている。近くに神社もある。認知症についての理解を地域の中で深められるよう、地元の文化祭に事業所としての参加を計画している。また、ほぼ毎日、ブログやインスタグラム等で、利用者の日々の様子やイベントごとの発信を行っており、家族は利用者の暮らしぶりや穏やかな笑顔を見ることができている。管理者は、職員個々を理解するため、プロフィールノートを作成し、働きやすい環境を整えながら、職員間の良好な関係構築に寄与している。これが継続雇用につながり、利用者も表情が安定している様子がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、フロンティアの介護の理念及び、施設目標を唱和している。	法人としての理念及び施設目標を、申し送り時に唱和し、職員間の意識を統一している。「利用者の笑顔を守ることで、楽しい職場を築き上げる」を施設目標とし、思いを込めて支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域・自治会とつながりを大切にし、民生委員の方々、地元介護系大学、ボーイスカウト、ご近所様等との交流を行っています	現在の場所に移転して2年足らずであり、地域との関係を構築している段階である。地域の文化祭に、事業所として参加しつながりを深められるよう計画している。利用者がモデルになり、ファッションショーを行ってくれるなど、交流したこともある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に、運営推進会議を開催し、市や自治会行事の情報をお願いしたりしている。行事報告では、ブログを活用している。	ようやく、運営推進会議を対面にて開催することができている。地域の文化祭への参加も会議での提案であった。家族や自治会長など、幅広い参加を得るため、今後も検討を重ねていく予定である。	運営推進会議は再開に至っているものの、参加者に偏りがある。今後、地元民生委員や自治会長、家族などの参加を得て、地域に根差した事業所運営につながることを期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは運営推進会議の場や日頃より連絡をとり、また、空室状況報告等で情報交換や助言、研修への参加の案内をいただくことにより、サービスの向上を目指している。	行政とは、感染症対策や様々な問題解決のために、直接、窓口に出向いて相談し、電話やメールでも情報を得ることができている。また、高齢福祉課だけでなく、生活保護関連では、福祉政策課とも協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に身体拘束・虐待防止の委員会を設け職員間で身体拘束を行わないケアに取り組んでおり、身体拘束廃止に向けて取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を定期的開催し、議事録を職員間で共有している。年間計画の中に研修を位置づけ、身体拘束をしないケアを実践している。事業所開設から現在に至るまで、身体拘束は行っていない。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を全体会議で定期的に行っている。虐待に対する知識を持ち、虐待を行わないという、強い信念のもと日々ケアを行っている。	虐待防止委員会を定期的開催している。職員は、認知症の中核症状について学び、対応方法の理解と共に、正しい言葉かけについて話し合い、常に冷静な温かい言葉かけでの支援に努めている。	

岐阜県 グループホームせきの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会を行い権利擁護に関する内容の理解・活用例などを勉強している。相談があった場合などにいつでも説明や助言ができるようしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は双方で確認しながら納得がいくよう説明している。 また、よく尋ねられる疑問点などについて尋ねられる前にも十分説明し、同意を得ている。見学の際にも説明するように心がけている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見や要望が挙げられるよう記入用紙を設けている。面会表にもご意見を頂ける項目がある。意見・要望・相談などが挙げやすい関係作りに努め、いただいた意見は運営に反映するように努めている。	ブログやInstagramなどの情報発信を積極的に行うことで、家族からも日々の様子がよくわかると好評を得ている。また、家族の来訪時には声をかけ、意見を聞くようにしている。ケアマネジャーから、直接、プランの説明を受けたいという家族のニーズにも応えている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議、業務改善ノートやアンケート記入、個々の面談を通じて職員の意見や提案を交換し合い、働きやすい環境作りに努めている。	毎月の全体会議前に、職員事前アンケートを実施し会議の議題を決めている。過去には有給休暇年5日以上取得について、法人から説明を聞きたいという意見が出た時には、法人と職員が意見交換を行い、説明をする場を設けている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	各種資格手当や責任能力に応じた給与体系を取っており、資格を取得した際には祝い金も支給される。また、グループ内で資格を取れるサポート体制が充実しており、職員は無料・割引料金で講習や資格取得の勉強会などに参加出来る。	休憩場所が用意されており、職員はノーコンタクトタイムを確保できている。資格取得費の補助や取得祝い金などもあり、職員の向上心アップに繋げている。認知症基礎研修には外国人職員も取得できるよう手配が行われている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部の研修は通知を行い積極的に参加できるよう支援している。全体会議等では、管理者からの勉強会資料を配布して認知症ケアに取り組んでいます。	職員は、法人内研修や外部研修受講等で学びを深めている。動画研修の際は、視聴後にレポートを作成し、全体会議などで報告している。インプットだけでなく、アウトプットも行うことで、学びを深めている。	

岐阜県 グループホームせきの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の他の施設とも交流を深め、(勉強会への参加も含め)サービスの質の向上を目指している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の入居前情報のみならず、日常生活においても、声掛けをしながら今、出来る事、将来出来そうな事を確認し、役割に参加していただきながら人間関係を構築している。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の思いや意向をコミュニケーションや日ごろの行動、言動、表情収集してから総合的にスタッフ間とも連携し合い、ケアに反映できるよう努めている。	入居時に、以前のケアマネジャーからフェイスシート機能評価票を受け取り、情報を把握している。把握した情報をもとにプランを作成しケアを行っている。入居後も引き続き情報収集に努め、プラン更新時に反映させている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員による毎月のモニタリングや担当者会議を参考にし、ご家族様、医療関係者と希望や課題を共有し、ケアプランに反映作成している。	ケアプランの更新時には、家族が訪問した際に説明を行っている。来訪が困難な家族には、ケアプランと共に、変更点などを説明する手紙を同封、電話でも説明し、署名、捺印、返送を依頼している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日常の言動、様子を記録し申し送り合い、変化状況の把握に努め介護計画へ生かしている。	申し送りノートとあわせて、タブレット端末にて個別記録の入力を行っている。タブレット端末に記録を入力する際は、利用者一人ひとりのプランに沿った記録が行われている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、ご利用者様、ご家族様のニーズに対して可能な限りサービスの実践へ相互協力の下、行っている。従前の面会時や電話時のみならず、メールでのやり取りも行っている。	本人・家族のニーズを丁寧に聞き取り、事業所として対応できることを説明している。連絡手段も電話にとらわれず、メールやLINEなど、柔軟な方法で行っている。理美容は毎月訪問を受けている。	

岐阜県 グループホームせきの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問を通じ交流を行ったり、地域大学との連携等へ参加し楽しみが持てる様支援に努めている。来年度は地元の文化債への出品を計画している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様やご家族様の意向を尊重し、ホームの往診医やかかりつけ医等ご希望の医療が受けられるようにしている。かかりつけ医への通院時の情報提供やご家族様が付き添えない場合の支援もしている。	入居時に、従来のかかりつけ医から協力医へ変更ができることを説明している。急な受診や専門医への受診は家族付き添いを基本としているが、都合がつかない時は事業所が同行している。協力医は、週1回の往診があり、看護師も週1回訪問がある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に介護サマリーを作成し、往診医から入院医療機関への情報提供を行い情報交換に努めている。また、早期退院に向け、受け入れ体制を整え情報交換、支援にも努めている。	緊急時には、救急隊員に患者の情報が即時に伝えられるように、個々の緊急シートが用意されている。入院時にサマリーを提供し、退院時は、必要に応じてケアマネジャーが退院前カンファレンスが参加し、連携を図れるよう調整を行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の見学時、入居契約時にあってもホームの出来る事の説明を十分に行い、ご本人様やご家族様の思いを書面に表記し確認に努め、ホームでの看取りへの体制を整えている。ホームでは対応困難な場合は、移動対応も考慮している	重度化や終末期については、入居時に指針を用いて事業所として出来る対応を、丁寧に説明を行っている。事業所での看取り経験はないものの、看取りを受け入れることができるよう体制を整えている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適切な対応が出来るように発生内容に応じた勉強会(AED 救急搬送方法等)を行ったり、講習に参加したり事故発生に対応できるよう実践力を身につけるべく努力している。また、緊急搬送情報ノートを作成している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回(地震後火災、夜間想定)し消防避難訓練を実施。近隣には、災害時の協力を依頼している。	災害対策については、BCPを策定中である。大規模災害時は、中学校が避難所になるが、今後、失火などによる事業所単独火災が起きた場合、一時的に駐車場へ避難し、後にどこへ移動するのかについて検討する予定としている。	万が一、事業所で失火による火災などが起きた場合の避難については、地元自治会との協力を得られるよう、相談や検討を重ね、利用者と職員を守れる体制作りに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや接遇、認知症ケアの勉強会を行い、職員の意識向上に努めている。また個々の人格を把握しプライバシーや自尊心を尊重した介護を行っている。	接遇研修は定期的に行われており、マニュアルも整備されている。入浴支援時に、他の利用者が浴室の扉を開けてしまうことも想定され、浴室入口に目隠し用のカーテン設置など、工夫する予定である。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の自己決定や希望を表現しやすい環境作りの為、コミュニケーションを計り、信頼関係を築くように努力している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは基本的に決まってはいるが、ご利用者様の日々の状態や雰囲気や考慮し、ご希望に添いながら臨機応変に対応・支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と共におやつ作りや食事の盛り付けを行っていただいたり、食器洗いや食器拭きなども皆様と共にを行うようにしている。ご利用者様の好みに応じてメニューを変更したりする場合もある	前日に本部から食材が届き、職員が調理を行い提供している。手伝うことができる利用者は、食器を拭くなど、それぞれにできることを取り組んでいる。行事の時には、利用者の希望に応じて、ピザやハンバーガーなど取り入れることもあり、楽しみに繋げている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取状況により対応策を講じている。また、栄養士によるバランスのとれた献立を提供しているが、ご利用者様の状態によっては職員が工夫して提供している。栄養状態が思わしくない方には栄養士が訪問し指導している		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己での歯磨き終了後の口内確認を実施し、必要な場合は補助でのケアを実施している。ご希望や必要に応じて歯科による口腔ケアも行っている 歯科衛生士からの指導にもとづき口腔ケアに行っている	共有スペースに洗面台が2つ設置されており、利用者は毎食後、自主的に歯磨きを行っている。職員は、必要に応じて確認し、仕上げのケアを行っている。また、月4回歯科衛生士による訪問があり、口腔体操指導や磨き残しのケアについて助言を得ている。実際に口腔ケアが充実したことで、利用者の食が進むなど、改善がみられている。	

岐阜県 グループホームせきの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様個々に排尿間隔、排泄サインを把握し、その時間やタイミングに合わせてトイレ誘導を行う。むやみにオムツは使用せず、出来る限り自己で排泄を促すよう努めている。歩行が不安定な方も出来る限り自分の足で歩いてトイレに行けるように支援している		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回を基本にしているが、希望がある際や状況に応じて入浴できるようにしている。立位困難な方にはシャワーチェアを使用したり出来る限り入浴を楽しめるように努めている。1階には機械浴もあり、重度の方も実際に対応を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠が強い利用者様には食事と食事の間に1時間程度居室して休んでいただいている。また、エアコンを有効に使用し安眠の手助けを行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報はいつでも閲覧できるようファイルされている。薬の変更時はスタッフに周知し、ナースからも注意事項の申し送りがある。12月から、服薬の指導相談も可能な薬局と連携する予定。	服薬間違えないように、利用者それぞれの名前を書いたボックスや、朝・昼・夕を色分けするなどの工夫をし、適切に管理している。薬の変更がある場合は、申し送りの共有を徹底している。薬剤情報は、職員の誰もが確認できるようになっている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前と午後の2回、レクリエーションを実施している。また、洗濯ものをたたんでもらったり、洗ったお盆を拭いてもらったりと、無理のない範囲で行ってご自分の得意な役割を行ってもらっている。	利用者一人ひとりの得意なことや、好きなことなど、丁寧なアセスメントを行いながら、日々の生活の中で役割として担ってもらっている。利用者の中には、小さなノートに自分で表を作り、服薬記録の自己管理をしている様子を見る事ができた。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよるが、晴天で気候が穏やかな日は職員と一緒に散歩を行い、地域の方と交流を行っている。家族様との外出は人込みを避ける範囲なら可能となっている。	天気の良い日は散歩へ出かけている。一階にあるテラスでは、外気浴を楽しむことができる。誕生日には利用者とケーキ屋へ行き、その人の好きなケーキを選んで購入、みんなで祝っている。現在は、人混みを避けた場所であれば、家族との外出も可能としている。	

岐阜県 グループホームせきの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの金銭管理はしていないが、ご利用者様・ご家族様の意向がある場合は個人の金銭管理の支援は可能である。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年の年賀状は出来る限りご利用者様にメッセージを書いていただいたり、手紙のご要望があれば郵送するようにしている。ご家族様からのお電話があった場合は取り次いだり、希望に応じてご家族様に電話を掛けていただくように心がけている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには、季節感のある花や写真の飾り付けを行い、心地よい空間を演出するように努力している。室温や証明は職員が過ごし易いかではなく、利用者様の視点での調節をするように心がけている。	共有空間は、ゆったりとした広さが確保され、季節の飾りや利用者の作品が飾られている。昼食時には、ヒーリング音楽が流れている。浴室は機械浴と個浴が用意され、体の状態変化に応じた支援ができるようになっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自己にて移動が可能な方は自身の判断にて、居室で過ごしたりしている。ソファーで過ごされたり自席で過ごしたり、ウッドデッキベンチなど思い思いに過ごせるようにしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご希望に応じてご利用者様が以前から使い慣れた家具や化粧品、思い出の写真など自由に持ってきていただき、より安心して、生活を送っていただけるように工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室壁面には手すりが張り巡らしてあり安全に移動できるようにしている。居室には名札、トイレには大きな文字でトイレ表示して分かりやすいようにしてある。利用者様によっては名札を見やすくして工夫している		